



# NEWSLETTER No.47

## Organic Geochemistry

The Japanese Association of Organic Geochemists

日本有機地球化学会

2008.6.9

### Announcement

## 第26回有機地球化学シンポジウム(2008年名古屋シンポジウム) ファーストサーキュラー

世話人：田上英一郎、三村耕一、西田民人  
(名古屋大学大学院環境学研究科)

記

会員の皆様

新緑の候、会員の皆様には益々ご清栄の事とお喜び申し上げます。2008年有機地球化学会シンポジウムは、名古屋大学の会員が担当して東山キャンパス環境学研究科環境総合館で開催させて頂くことになりました。名古屋地方気象台の長期予報によれば、7月下旬の名古屋は平年に比べて晴れる日が多く、気温も高めようです。アスファルトも溶ける名古屋の蒸し暑さを皆様にお裾分けできるかもしれません。

本シンポジウムは、自然界に存在する有機物を研究対象とする研究者・学生が一同に会する年に一度の貴重な機会です。有機物が関わる多様な時空間スケール現象への理解を深め、暑さに負けず熱い議論を通して本シンポジウムが皆様にとって実りあるものになるよう、世話人一同精一杯準備させて頂きます。多くの皆様のご参加を名古屋から心よりお待ちしております。参考：2008 名古屋シンポジウムホームページ (<http://etlab.hyarc.nagoya-u.ac.jp/ROG2008/index.htm>)

### 1. 日程

7/23 (水)：運営委員会

7/24 (木)：講演会、総会及びポスター発表  
(名古屋大学環境総合館 1F レクチャーホール)、懇親会 (名古屋大学グリーンサロン東山)

7/25 (金)：講演会 (名古屋大学環境総合館 1F レクチャーホール)

### 2. 会場

名古屋大学 環境総合館  
〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町 1  
名古屋大学内

<交通アクセス>

名古屋駅から地下鉄東山線で「本山駅」まで乗車し、名城線に乗り換え「名古屋大学駅」下車、名古屋大学 東山キャンパス内  
以下のウェブサイトをご参照ください。

(<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/contact/map.html>)

### 3. 開催までのスケジュール (予定)

6/9 (月)：参加・講演・特別セッション

企画などの申込受付開始

6/27 (金) : 講演申込・講演要旨締切

7/11 (金) : 参加申込 (事前登録) 締切

7月初旬 : セカンドサーキュラーアップ予定

#### 4. 参加申込 (登録)

講演要旨印刷、名札作成や懇親会等の準備の都合上、できるかぎり事前申し込み (7月11日 〆切) をお願いします。懇親会は当日受付も行う予定です。

名古屋シンポジウムウェブサイト上、又は本ニューズレター号末の申込書を電子メール (直接メールにコピー&ペーストしてお使いください。添付書類にしないようお願いいたします。)、郵送、または FAX にてお申し込み下さい。どれをお使いいただいても結構ですが、可能な限り電子メールでの申し込みをお願いします。

参加申込先

<メールでの申込>

nishida.tamihito@g.mbox.nagoya-u.ac.jp

(題名に【名古屋シンポ】と明記してください。)

<FAX での申込>

052-789-3476 (直通) (西田宛)

<郵送での申込>

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町1

名古屋大学 大学院環境学研究科

日本有機地球化学会

名古屋シンポジウム事務局

西田 民人

#### 5. 連絡先

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町1

名古屋大学 大学院環境学研究科

田上 英一郎

TEL 052-789-3472

FAX 052-789-3476

#### 6. 宿泊

宿泊は参加者各自で御予約ください。

以下の宿泊情報をご参考ください。

宿泊情報

<http://nagoya.businesshotel-map.jp/map/station/nagoyadaigaku.html>

<http://nagoya.businesshotel-map.jp/>

「栄」・「金山」が繁華街に近く、地下鉄名城線1本で、会場に到着できるのでおすすめです。

#### 7. 発表形態

◆ 発表は口頭発表とポスター発表で行います。口頭での講演時間は1件あたり質疑応答も含め20分を予定しています。

◆ 使用可能機材は、原則として液晶プロジェクター1台とOHP1台を用意いたします。スクリーンは1基あります。PCはPower Pointが使用できるものを準備します。バージョンは、Windows XPです。液晶プロジェクターを使って発表される方は、Windows版のPPTファイルをCDまたはフラッシュメモリ等にコピーして持参し、セッション開始前にPCにコピーしてください。なお、Macintoshなどで、本人がPCを持参し使用される場合は各セッション開始前に会場係までご連絡ください。

◆ 推奨するポスターサイズは横83cm×縦120cmです(A0で縦1枚)。ただし、貼り付けるボードのサイズは横90cm×縦180cm(ボード上面の高さは180cm)ですので、この範囲ならば差し支えありません。参加状況によっては、ポスターのショートプレゼンテーションは行うことがあります。

◆ 今年度も学生参加者のポスター発表に対し「最優秀ポスター賞」の表彰を実施します。最優秀者1名に対し賞状および副賞(お楽しみ!)が進呈されます。

## 8. 発表要旨

◆講演、ポスターとも、1題につきA4版1頁以内で作成してください。原則として電子メールに添付して下記へ送付ください。

nishida.tamihito@g.mbox.nagoya-u.ac.jp

(題名に【名古屋シンポ要旨】と明記下さい)

◆電子ファイルの標準はWord2003です。カラー図を使用希望の方はご相談ください。

◆要旨は、下記の形式を目途として作成してください。または過去のシンポジウムの要旨集を参考にしてください。

余白(上30mm, 下30mm, 左右20mm程度), 行数(本文36行程度), 文字の大きさ(11ポイント程度), 1・2行目はタイトルと発表者氏名(センタリング, 発表者の氏名の前に○, 連名は・で区切り, 所属は名前の後にカッコ書), 3・4行目は英文タイトル・氏名・所属。

## People

若手研究者の紹介コーナー「People」です。

### 人との出会い

北海道大学低温科学研究所 雪氷物性・惑星科学グループ  
大場 康弘 (博士研究員)

それでは簡単に私がこれまでに行ってきた研究活動、そして数々の先輩・先生方の出会いなどを中心にお話させていただきます。私は筑波大学に入学後、不真面目な学生生活を送りながらもどうにか卒業研究を行えるまでたどりつき、宇宙化学研究室に配属され、下山晃教授(現・高知学園短期大学学長)のご指導を仰ぐこととなりました。これが私と有機地球化学の最初の出会いとなります。当時の下山研究室には、大庭雅寛先輩(現・東北大学)、藪田ひかる先輩(現・大阪大学)など、過去のニューズレターにも寄稿されている優秀な先輩が在籍しておられ、先輩方の研究に対する姿勢に刺激を受けたのを覚えています。有機地球化学、そして諸先輩方との出会いが、それまでの不真面目な学生がほんのわずかではありますが、研究者の方向に向きを変えるきっかけとなりました。

筑波大学卒業後、1年間のブランクを挟んで東

## 9. 参加費・懇親会費

参加費は、シンポジウム受付時に徴収します。シンポジウム開催期間におけます昼食等は特別こちらで御用意致しませんのでご注意ください。

シンポジウム会場向かいの生協食堂・カフェ・自動販売機が利用できます。

参加費(要旨集)

会員 2,500円、非会員 4,500円

懇親会費

一般 3,500円、学生 2,500円

その他

名古屋の世話人では、特別セッションを企画しておりません。特別セッションを希望される会員は世話人宛連絡下さい。

京都立大学大学院理学研究科に入学し、奈良岡浩助教授(現・九州大学教授)のご指導の下、炭素質隕石中有機化合物(特に低分子モノカルボン酸・PAHs・高分子状有機物)の起源・生成メカニズム解明をテーマとして研究を行ってきました。奈良岡研究室で研究を行う上で欠かせなかったのが、同位体比質量分析計のオペレーションおよび日常のメンテナンスでした。従来、細かい作業を得意としなかった私ですが、奈良岡先生と力石嘉人先輩(現・海洋研究開発機構)の熱い御指導により、どうにか機器を扱えるまでに成長しました。両氏には現在に至るまで大変お世話になっており、私の研究生活を振り返る上で欠かすことのできない人たちです。岡山大学大学院博士課程に進学後、ネバダ大学リノ校のサイモン・ポールソン博士との出会いがありました。彼は奈良岡先生との共同研究のため、岡山大学に約2ヶ月滞在されました。そ

の間、研究に関することから日常の取るに足らないことに至るまで、毎日のように英語で会話する機会を得ることができました。ポールソン博士は私のつたない英語をどうにか理解しようと熱心に耳を傾けてくださり、また、聞き取りの苦手な私のためにゆっくりとわかりやすく話してくれ、大変紳士で、かつ陽気なイギリス人でした。岡山大学での学位取得後、このときの親交がご縁となり、1年間、ネバダ大学リノ校で博士研究員として勤務させていただくこととなりました(ちなみに学位論文は「炭素質隕石中有機物の炭素・水素同位体組成とその変質過程との関係」というタイトルで書きました)。右も左もわからずに渡ったアメリカ、不安でいっぱい私を支えてくれたのはポールソン博士をはじめとしたネバダ大学の仲間たちでした。彼らは英語もろくに話すことのできない私に気さくに話しかけてくれ、快く仲間として迎え入れてくれました。もし彼らの優しさがなければ私はアメリカで1年間暮らすことができなかつたことでしょう。現在は北海道大学低温科学研究所で博士研究員として香内晃教授の指導の下、極低温表面原子反応による水分子生成機構解明など、生命誕生以前の化学進化に関する研究を行っています。当研究室は物理系出身の方が多く、物理がこの上なく苦手な私にとっては空気が違うと感じることすらありますが、機器の扱い方などとても親切に指導していただいております。まだ着任してから2ヶ月ですが、 $\sim 10\text{K} \cdot 10^{-10}\text{Torr}$  という極低温・超高真空環境で行う模擬実験は星間空間での化学進化過程解明に不可欠であり、今後の研究が非常に楽しみです。

さて、これまで稚拙な文章を書きながってきた私が何を言いたかったかという、これまでの私の研究生生活は多くのすばらしい人達によって支えられてきたということです。時に実験など研究活動は一人で行うことが多くなりますが、そんな中でも周りの人との交流を忘れず、研究に関する意見交換、そして仕事が終わった後の息抜きなどを共にすることが、円滑に研究を進める上で必要なことではないかと思っております。

紙面の都合上、本稿でお名前を出せなかった先生・先輩・同級生・後輩の方々にも大変感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。まだまだ人間としても研究者としても未熟な私ですが、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



写真は著者がアメリカを離れる前に開いていただいた送別会で撮影。向かって右から3人目が筆者、中央一番後ろがサイモン・ポールソン博士。

## 帰国のご挨拶

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻・助教  
藪田ひかる

このたび、4年間のアメリカでの研究生生活を終え、帰国いたしました。5月1日より、大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻の助教に着任し、新生活を始動したばかりです。日本有機地球化学会の先生方、同士の皆さまには、一層のご指導ご鞭撻を仰ぎたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

実は、本会誌「People」には渡米前にも出させていただきました。今回は、昨年頂いた田口賞にちなみということで、再び執筆の機会をいただきましたこと、感謝申し上げます。

私は、田口一雄先生のご生前にお会いしたことはございませんが、先生の奥様には、1997年



写真 カーネギー研究所の NMR Lab.にて

の有機地球化学シンポジウムで一度お会いしたことがあります。眼鏡の奥の瞳が若々しく、モダンでお元気の佇まいが印象的でした。懇親会の席で、私が奥様にご挨拶させていただいたのがきっかけで、会が終わった後、奥様はご自分の宿泊部屋に私をお誘いくださいまして、さらに2時間以上お話しくださいました。奥様は私に「あなたは女だから、研究を続けるか、結婚して家庭を持つか、よく考えないといけないよ。どっちをとるんだ」と問われました。私は大して考えずに、両方です、と答えたところ、奥様から返ってきた言葉は

「・・・あなた、『デカモノ』だね」

デ、デカモノ・・・?? 東北弁・・・?? 今のところ、2つのうち片方の道しか歩んでいない私は『デカモノ』ではないのですが、ただ、それぐらいに研究道には覚悟がいるということをご研究に打ち込まれる田口先生を傍で支えていらしたからこそのお言葉であったのだと、奥様の粋な口調と共に、記憶しております。その翌日、バスで偶然同乗した学会員の方から、A4サイズに拡大された田口先生のご遺影を頂きました。このお写真と、先生の奥様とお話した時のことが、昨夏にふとよみがえりました。

私が渡米したのは2004年の春で、初めの1年間はアリゾナ州立大学の Sandra Pizzarello 先生のもとで過ごしました。Pizzarello 先生は、本学の John Cronin 先生との30年以上のパートナーシップで隕石有機物の研究を展開してきた方で、私の学生時代の指導者である下山晃先生と同じく、本分野を世界的に築き上げた先駆者の一人です。Pizzarello 先生は、研究面におい

ては毎日とっていいほどに叱咤を飛ばしてくださいました。同時に、生活面における私の身の安全にも気を配ってくださいました。また、アリゾナの、サボテン、砂漠、赤い岩山、スペイン語圏、という独特な土地柄と、夏には普通に40°Cを超える、笑うしかない暑さが、私のテンションを高く維持してくれました。その間には、命の恩人と呼べる人達との出会いもあり、本当の家族のような付き合いをさせていただきました。その方達は60、88、90歳の3人のアメリカ人女性で、それまで日本人と一度も接したことがなかったにも関わらず、私を居候させてくださいました。今でこそ、珍同居生活だったなとも思えますが、彼女達の懐の深さに、私は一生感謝し続けます。その他にも色々な人達(と動物達)が、心温かく接してくださり、私にとってアリゾナは、ふるさとのような、出発地点のような、特別な土地になりました。

続く3年間は、ワシントンDCのカーネギー研究所で、George Cody 博士と Conel Alexander 博士に師事しました。Cody 博士は多核固体 NMR を専門とする、物理学的思考に長けた化学者で、Alexander 博士は隕石のことなら何でも知っている宇宙科学者で、研究トピックはそれらにとどまらないのですが、2人の間は“Organic matter”という絆で結ばれています。Cody、Alexander 両博士は、野球でいうピッチャーとキャッチャーのようなコンビで、2人から生み出されるサイエンスは極上です。キャラクターがそれぞれ違うタイプというのも、相乗効果になっていると思います。私は、彼らが持っている研究センスを身につけたくて、先行く2人の背中



写真 Halloween party (2006年10月)。ハリーポッター(左側、私)と海賊(右側、Dr. Heather Watson)。



写真 国際隕石学会のExcursionで行った、Desert Museumからの風景(Tucson, Arizona) (2007年8月)。

を3年中ずっと追いかけていました。第一に楽しく研究を続ける彼らの姿勢は、常に刺激的でした。一応、自分もそれなりに、幾つかの研究成果を上げることができたので、これから頑張って論文にまとめていきたいと考えております。また、Cody、Alexander 両博士は、私に色々なチャンスを与えてくださいました。中でも、NASAの彗星塵サンプルリターン計画、スターダストミッションでの初期分析チームに参加させていただいたのは、幸運な出来事でした。これを境に、自分の心には「こんなすごいことができるアメリカで研究続けるのってやっぱりいいか

も」「この経験を生かして、‘HOME・日本’の惑星科学を盛り上げる一メンバーになりたい」という2つの気持ちが同時に生じたのですが、その頃には、アメリカでの研究生活をリアルなものとして冷静に捉えていて、“面白い研究は、環境や条件に関係なくできそうだな”という想いも、心に芽生えておりましたので、総合的に考えた結果、後者の気持ちが勝り、帰国を決めました。今後は、自身の研究活動の他に、教育、および組織としての仕事に加わってくると理解しております。責任感のあるポストにやり甲斐を感じながら、邁進していく所存でございます。

## Information

### ROG への投稿原稿を募集中！！

#### Researches in Organic Geochemistry 編集委員長 三瓶 良和

ROG (Researches in Organic Geochemistry) は本学会の学会誌で、有機地球化学およびそれに関連する論文を掲載し、年1回発行しています。昨年12月末にVol. 22(受賞記念総説1編、論文2編、技術論文2編)を発行しました。現在Vol. 23の原稿を募集しています。カテゴリーは、1) 論文(article)、2) 短報(note)、3) レター(letter)、4) 技術論文(technical paper)、5) 総説(review)です。有機地球化学シンポジウムで発表された内容や、博

士論文・修士論文の一部の発表も歓迎いたします。詳細は、ROG Vol. 21の巻末の投稿規定をご参照ください。なお、編集委員会へのご意見・ご要望等もお待ちしておりますので、併せてよろしくお願ひいたします。

ご投稿は下記までお願いいたします。

PDF 添付ファイルによる電子投稿：  
sampei@riko.shimane-u.ac.jp

郵送：〒690-8504 松江市西川津町1060

島根大学総合理工学部

三瓶 宛(TEL:0852-32-6453, FAX: 0852-32-6469)

### 2008 年年会費納入のお願い

会員の皆様には日頃よりご支援いただき、誠にありがとうございます。事務局から2008年の年会費の納入についてご協力をお願いいたします。年会費は一般会員2000円、学生会員1000円となっております。末頁に記載の郵便口座までお払い込みをお願いいたします。ご自分の最終納入年度がわからない等ご不明の点がございましたら、どうぞ遠慮なく事務局までお問い合わせください。また、職場や自宅を移動された方

は名簿作成と郵便物配布のために新しいご住所、電話番号、ファックス番号を下記までご連絡下さい。また、E-mailアドレスをお持ちの方は、ニュースレターのメール配信等のため、差し支えない限りE-mailアドレスを事務局までお知らせいただくようお願いいたします。

郵便振替口座：00110-7-76406

名義人：日本有機地球化学会

編集後記：皆様の寄稿をお待ちしております。

発行責任者 有機地球化学会会長 田上 英一郎

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 環境学研究科

Phone: 052-789-3470, Fax: 052-789-3436

日本有機地球化学会事務局

〒105-0001 東京都港区虎の門 2-2-5 共同通信会館

出光オイルアンドガス開発（株）技術室内

事務局長 奥井 明彦

Phone: 03-5575-0347, Fax: 03-5575-0350

e-mail: secret08@ogeochem.jp

郵便口座 00110-7-76406（名義人 日本有機地球化学会）

編集者 山中寿朗（岡山大学大学院自然科学研究科）早川和秀（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

e-mail: news@ogeochem.jp

有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。

アドレス：<http://www.ogeochem.jp/>

2008年 月 日

第26回有機地球化学シンポジウム（名古屋シンポジウム）  
参加申込書（6月27日必着）

発表を，（1）行います（2）行いません（いずれかに○）

1. 氏名

2. 所属

3. 連絡先の所在地，電話，FAX，E-mail

4. 発表題目

5. 発表形態

（1）口頭（2）ポスター（3）どちらでも可（いずれかに○）

6. 使用機器（口頭発表の場合いずれかに○）

（1）液晶プロジェクター（2）OHP（3）その他（ ）

7. 発表者氏名（所属）（連名の場合発表者に○をつけて下さい）

8. 発表に関する希望（発表日時，発表順など）

9. 懇親会に，（1）参加します（2）参加しません（いずれかに○）

10. 申込書の送付先（申し込みは郵送，FAX，E-mailのいずれでも可です。）

<メールでの申込>

E-mail: nishida.tamihito@g.mbox.nagoya-u.ac.jp

（題名に【名古屋シンポ】と明記してください。）

<FAXでの申込>

052-789-3476（直通）（西田宛）

<郵送での申込>

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町1

名古屋大学 大学院環境学研究科

日本有機地球化学会 名古屋シンポジウム事務局

西田 民人